

学校評価アンケートの結果

- 1 目的 学校の取組を児童、保護者、職員で評価し、教育活動の改善を図る。
- 2 日程 令和7年12月 5日(金) 保護者アンケート配付 (Forms付きの用紙を配布)
懇談会会場でも答えられることを書いておく
12月8、9、10日 懇談会
12月2日(火)～12日(金)
児童はこの間にタブレットで入力 (Forms)
12月15日(月) 保護者アンケート回収終了
12月22日(月) アンケート結果集計完了
冬休み アンケート結果集計分析 (教頭)
令和8年 1月～2月 アンケート結果集計分析検討 (総務)
2月27日(金) 第3回学校運営協議会
3月中旬以降 検討会の開催 (学年会、各指導部会等)
3月23日(月) アンケート結果公表 (HP)
- 3 対象 全学年児童 (タブレット)、全学年保護者 (FormsのQRコードで実施)
全教職員 (FormsのQRコードで実施)

4 学校評価アンケートの分析と考察

- (1) 「学校生活」の項目では、児童の90%が学校を楽しんでいると感じている。また、保護者もその様子を実感している。「楽しく充実した学校生活」にしようとする教員の取組が結果となって表れている。ただ、「学校は楽しくない」と感じている児童が、8% (学級に2～3人) いることも忘れずに努力を続けていきたい。
- (2) 「学習理解」の項目では、「授業が分かりやすい」と答えた児童が88%いた。児童が授業について「分かった」「できた」と実感できていると感じる。分かりやすいと感じていない8%の児童ができた喜びを味わえるように教員の授業力を向上していきたい。
- (3) 「肯定感」の項目では、「自分にはよいところがある」と答えた児童が77%いた。子どもたちの「自己肯定感」を高める指導を意識して行っていくために、道徳教育の充実やソーシャルトレーニングを引き続き継続していく必要がある。児童の個性を認めながら、「自己肯定感」を高める手立てを保護者、教員で考え、同一歩調で進めていきたい。
- (4) 「有用感」の項目では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた児童は80%であった。教員は「子どもたちのよいところを認めようとする支援に努めている」と98%が答えており、保護者も児童のよさを理解してくれている。子どもたちへの心に響く「認め方」「褒め方」をさらに工夫して、今後も実践していきたい。
- (5) 「感謝」の項目では、「周りの人に感謝の気持ちを伝えることができている」と答えた児童は91%で、教員も「ありがとう」が伝わるような指導 (100%) をしている。週1回のソーシャルスキルトレーニング (ひがりんタイム) や帰りの会で行っている「いいところ見つけ」、「ありがとうの木」の掲示などの成果が出ていると感じている。家庭や地域でも「ありがとう」と伝えられるように指導していきたい。
- (6) 「規範意識」の項目では、「時間や決まりを守って生活できている」と答えた児童は83%だった。学校のノーチャイム制によって、時間を意識して生活を送っている。学校でも、家庭

でも、社会でもルールやマナーを守って生活することの大切さが伝わるように、学活や道徳などで心を育てていきたい。

- (7) 「挨拶」の項目では、児童の87%、保護者の83%が「あいさつができています」と回答している。教員は集会や朝の会・帰りの会などで、挨拶の大切さを話している。児童会活動の「あいさつ運動」も継続している。地域での挨拶ができるように、学校と家庭で歩調を合わせて指導していきたい。
- (8) 「交通安全」の項目では、児童(92%)、保護者(95%)、教員(95%)の3者とも、交通安全に対して高い意識をもつことができている。ただ、交通量の多い学区のため、児童の登下校での危ない場面が報告されている。朝の会や帰りの会、集会等の機会を捉えて、交通安全を意識させながら、命の大切さと合わせて指導を続けていきたい。
- (9) 「相談」の項目では、14%(学級に4~5人)の児童が、困ったことを教師に相談できずにいる。教員は手を差し伸べている(100%)と考えているが、届いていないケースもある。子どもたち自身の問題解決能力を高めつつ、年3回の教育相談を生かした指導に心がけていきたい。
- (10) 「いじめ防止」の項目では、教員はいじめやトラブルを解決するように努めており(100%)、86%の児童も教員の取組を受けとめている。保護者に思いやりの心を育てる取組が伝わるよう、丁寧に伝えるように心がけ、学校と家庭が同一歩調で指導に当たることができるように、粘り強く取り組んでいきたい。
- (11) 「体力健康」の項目では、児童(82%)、保護者(86%)が運動の大切さを理解している。今後も栄養教諭による食まるファイブの栄養に関する授業や養護教諭が学期始めに実施している生活チェック「すこやかカード」の効果が大きいと考えられるので継続していきたい。
- (12) 「体育・長放課」の項目では、82%の児童が進んで体を動かしていると答えている。特に低学年は外遊びに行く児童が多くいる。高学年は係や委員会の活動が長放課にある児童もいるので、運動場に遊びに行けない場合もある。また、読書が好きで図書室で本を読む児童も多い。体育の授業で効果的に体を動かす活動や、体力向上プロジェクトの一環として行っているチームジャンプや体育委員会による外遊びの企画を継続していきたい。